

## 実家に帰る

横浜市グループホーム連絡会

会長 室津 滋樹

ふれあい生活の家は、まだグループホームの制度がない時代にスタートしました。当時、補助金はもちろんないし、収入は寄付金が多くなり、運営費といってもほとんどありません。職員を雇うこともままならず、援助・介助はボランティアに依存していました。援助者の確保が困難な状態だったので、入居者は週末には実家に戻っていました。

親から独立した生活を始めたばかりで、皆自分の生活を作り出すことに燃えていました。入居者の一人は自分の身の回りのものは自分で買い、買ったものは家計簿につけ、自分で生活費を管理しようとがんばっていました。ところが実家へ帰るとめっちゃくちやになってしまったのです。「こんなにお金をもっていては危ない」とお財布のお金が減っていたり、トイレトペーパーがなくなりそうだから買いに行く予定だったのに、親がトイレトペーパーをもたせてしまったり、一週間積み上げてきたものが全部振り出しに戻ってしまうのです。当時は実家に戻るのをやめて欲しいと真剣に考えました。

実家に戻ると、ようやく作りかけた自立した生活を、元の依存した生活に戻すだけだという考えが間違いだったと気づいたのはしばらくたってからでした。実家に帰

らないです。グループホームにいる入居者が現れ、他の入居者の中でも週末に実家に帰らないというブームが起きたのです。しかし、ずっと実家に帰らないとがんばっていた入居者がやがて疲れきってしまったのです。

考えてみれば、急に生活の仕方をガラッと変えるということは大変なことなのです。新しい暮らしをめざして他人の中で暮らすというのは、やはりずいぶん疲れることなのだと思います。グループホームで新しい生活をおくりながら、週末には元の暮らしに戻ってゆっくりと休む、このような繰り返しは時期が、親からの独立に役にたつでしょう。

親から独立していくためには、いつでも帰れる実家があった方がいい。これが実感です。このことに気づいてからは、実家に戻れない人には、グループホームで十分休めるような工夫や援助を心がけるようにしました。

グループホーム連絡会がこのたび実施したアンケートでは、週末全員実家に戻っているというグループホームが1/3もありました。しかし、この現実に入居者の必要に応じて実家に戻ったり、ホームに残ったりという選択の結果ではないのです。職員の体制を作れないので、実家に帰ってもらっているのです。このような状態ではないはずがありません。三六五日暮らせなくては、本当の自分の家とはいえません。その上で帰りたいときには実家に帰ることができるようなグループホームに一日も早くしなければとあせっています。

# 三六五日常生活できる グループホームに!

今年もようやく秋の気配が感じられる季節になりました。多くのグループホームでは夏休みの戦争状態が終息して、ホッと一息ついていることでしょう。

作業所や通所施設が休みのお盆の季節、年末年始の季節はグループホームにとって頭の痛い季節です。

いつもの家事や介助に昼間の援助が加わります。お昼ご飯のことだけでなく、グループホームにいる人たち一人一人のやりたいことに応えるのも大切なことになってきます。グループホームにいる人たちのやりたいことは一人一人さまざま。この状態が一週間続くのです。

本当はいつもと違ったことができて入居者にとっては楽しいはず

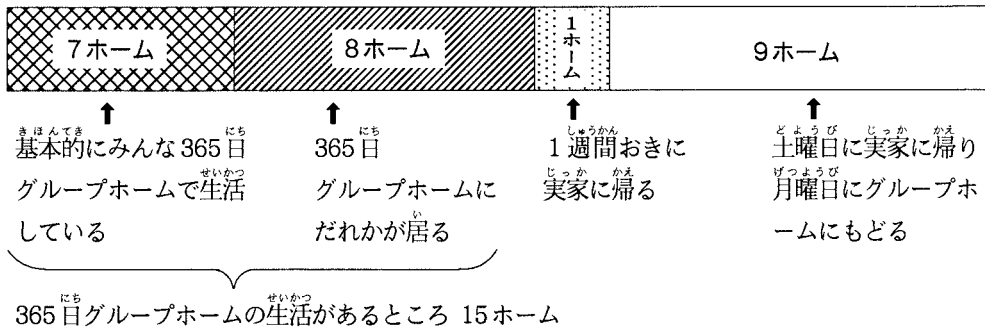
の休みですが、今の職員体制にはあまりにも余裕がなく、入居者のみんなにとっては落ち着かない休みになっているのではなからうかと思うほどに休みの時期は忙しいのです。ガイドヘルパー制度の充実を願う季節でもあります。

連絡会に所属しているグループホームのなかには、複数のグループホームを運営し、休みの間は一ヶ所のみ運営しているところがあります。まるでグループホームのショートステイです。職員数の不足を補うための工夫ではありますが、その人にとっては自分の家にいるわけではないので、自分の部屋や自分のものがあるわけでもなし、いつものように過ごすこともできず、落ち着かないことですよ。

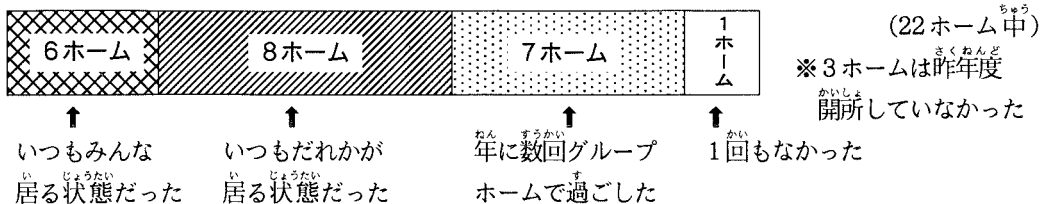
また休みの期間は入居者全員に実家に帰ってもらい、グループホームを閉めているところもあります。

## アンケートの結果 1996年7月実施

☆現在入居者は週末どこで生活していますか (25ホーム中)



☆昨年度入居者が週末、祭日、夏休み、年末年始をグループホームで過したのは何回ぐらいですか



▽横浜市グループホーム連絡会ではこの七月、連絡会所属のグループホームの週末や祭日等の実状と入居者のニーズについて、アンケート調査をおこないました。

まず入居者の一週間の生活の流れについては、回答のあった二五ホームのうち、週末は実家に戻っていると答えたホームが九ホーム。三六五日入居者のうち誰かはいると答えたところが一五ホームでした。

いつも入居者がいるホームでは、どこも一年間を通しての職員体制やアルバイト体制を組み、オーバーする部分はボランティアを頼んだりして、とにかく入居者がいる時間には援助者が誰かいるようにしているとの答えでした。また週末を実家に頼っている九ホームのすべてが知的障害をもつ人のみのグループホームでした。

この回答結果からは、グループホーム連絡会に所属しているグループホームでは、援助者なしで

週末を過ごすことのできる入居者がほとんどいないことがわかりました。

また週末を実家に頼らざるを得ない状況にあるホームの背景を考えてみると、知的障害の人たちのグループホームでは身体障害をあわせもっている人たちに比べて利用できる制度が非常に少ないためにグループホーム制度の弱さがストリートに運営に現れるということがあります。

それでも横浜市は全国に先駆けて障害が重い人たちも地域の中で生活できるようにグループホーム制度を整え、介助型運営費も創設してきました。特に複数の職員の雇用ができるようになったところでは、知的障害の人たちのグループホームでも少しずつ週末の開所に向けての取り組みが始まっています。

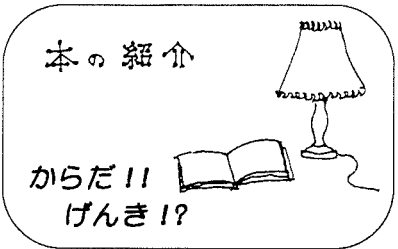
現在の課題は職員が一人しか雇えないグループホームです。職員が一人しかいない状態では、職員

も休養をとるためには実家に頼るしかありません。しかしこのような状態にあるグループホームも、実家に帰ってもらうことで問題が解決しているわけではありません。入居者の中には家族で支えきれなくなっている人もいます。何とかして開所できる日数を増やしたい

と願っています。何よりも入居者のみなさんにとって、三六五日いたい時にいられてこそ自分の家です。一日も早くグループホームが我が家と呼べる状態にしなければならぬと思っています。

私たちが健康に暮すための食べ物や暮らし方、病気の原因や症状が絵をたくさん使ってやさしい言葉で説明してあります。

の様子が絵をつかって説明してあります。そういうときどうすればよいか。病気になるためにどんなことに気をつければよいかなど実際に役立つことがいっぱい。



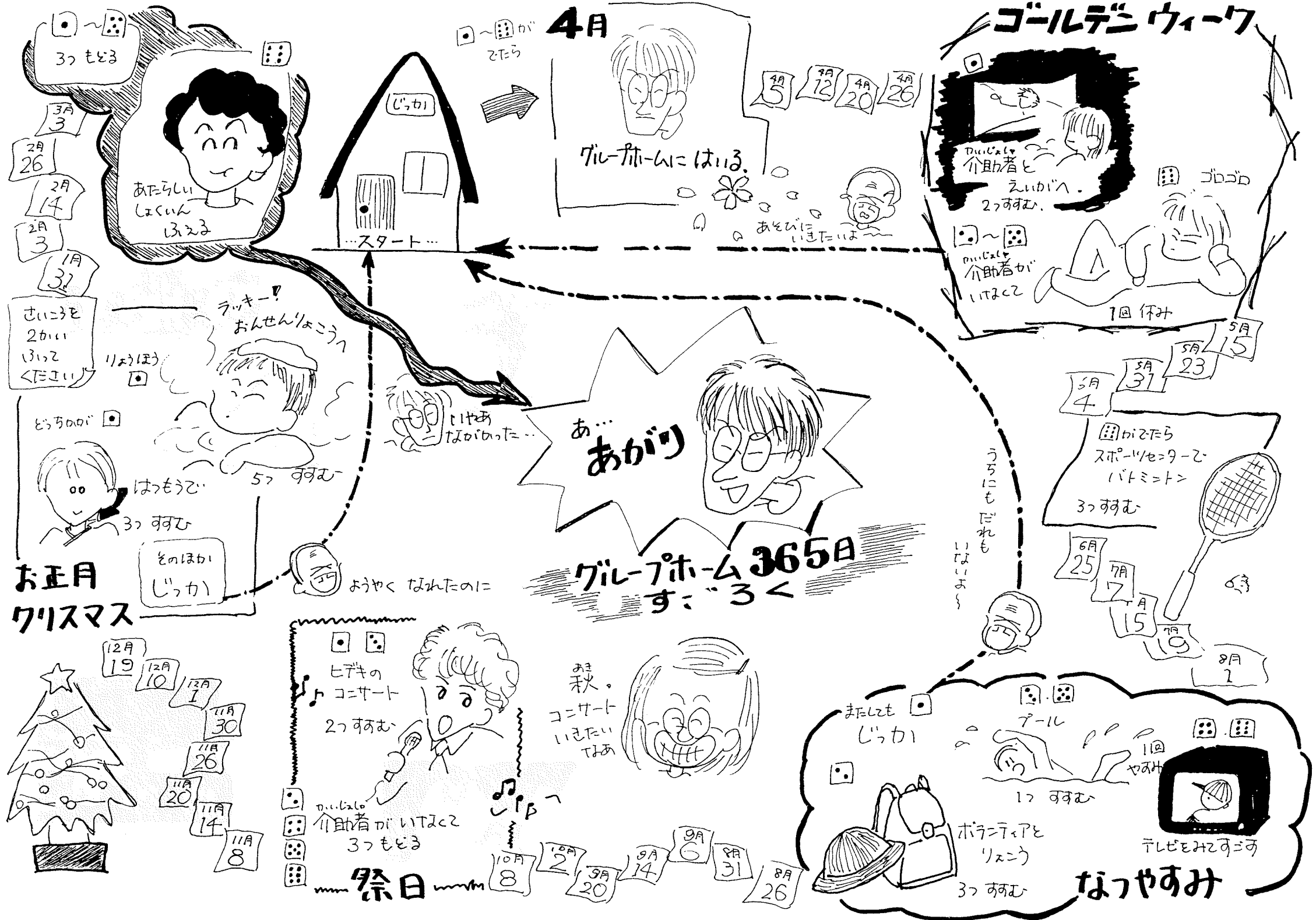
本の紹介  
からだ11  
げんき1?

申し込み先は 〒105 東京都港区西新橋2-16-1 全国たばこセンター8階 全日本手をつなぐ育成会

でんわ 〇三三四三二一〇六六八 FAX 〇三三三三七八一六九三五

第2部は、よくある病気の具体的な症状、例えば下痢のときの便

代金は送料込みで五百円です。



### 友の家

では友人達と十六名で北海道ツアーに参加。旅費は一年がかりで貯めて…

北海道旅行についての感想  
森下 修

2泊3日のツアーでいきました。はじめはサップポロファクトリーへ行って小樽の運河で写真をとろうと思ったら雨が降っていて残念。余市のニッカウイスキーにいき、ニセコのホテルに泊った。次の日は長万部を通り大沼公園を通って



函館に着いて夜景を観ました。台風のとどろいたのできれいだった。朝市へ行ってみたら、魚やメロンやじゃがいも、かにながたくさんあってにぎやかだった。ハリストス教会等を歩いてまわりました。

教会等を歩いてまわりました。

### ふれあい生活の家

の三谷さんはボランティアと旅行。

8月14・15日に福島へ行ってきました。会津と喜多方へ行ってきました。会津は僕のお母さんの田舎だから一回行ってみたかった。

会津に着いてお昼を食べてお城に行ってみました。きれいでした。その後ホテルに着いてお風呂に入っ、夕食食べてゴロツとゆっりねました。

2日目は喜多方へ行き、ラーメンを食べました。おいしかった。とても楽しかったです。

来年もまたどっかへ行きたいです。おわり 三谷ひろゆき



## どんな夏休みだった？

### グループホーム やまゆり

では、友の家の職員だった黒羽さんをたずねて8月11日から群馬県のみついで森の家に二泊、牧場や横川のガラス館に行きました。「職員さんと一緒にのへやで寝れて楽しかった。花火がきれいだった。また行きたい。」 (池田)

「ハイキングが楽しかった。食事がおいしかった。リュックが重かった。」 (松永) 「ごはんがおいしかった。牛

### グループホーム あい

では四人が8月17・18日 学年級のキャンプに参加。活動ホーム「むつみ」の青

「夜ね、火をたいたりね、ああいうの初めてだったから、よかったですよ。」 (戸井)

「楽しかった。野外炊事、キャンプファイヤー、花火。それからすいか割りも……」 (中川)

「大郷さんがせんせん相手にしてくれなかったから、つまらなかつた。」

乳とアイスクリームを食べた。コップを作っているのを見た。(岩崎)

「花火がよかった。電車の切符を自分でかんりしたのが難しかった。」(熊谷)

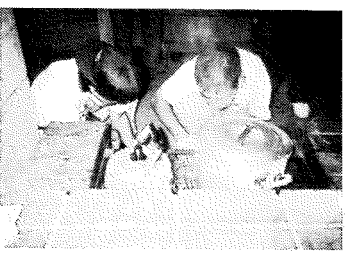


「おもしろかった。牛乳がおいしかった。電車に乗って楽しかった。」(上野)

た。」(森川) (エツ写真は何か?)

「よかったです。花火もキャンプファイヤーも。カレーライスがじょうずにできました。」 (川崎)

森川 「大郷さん、これでいいかなあ？」  
大郷 「そうだねえ、もう少しかな」



# 熱気ムンムン

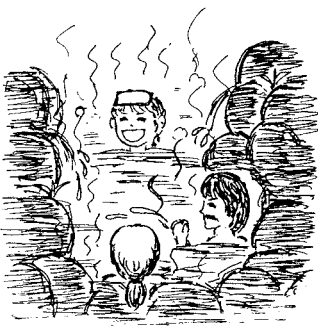
## 入居者部会

― 第五回総会開かれる ―

去る七月六日、新横浜の横浜ラポールにての総会。グループホームの数も年々増え、昨年同様、パワーあふれる総会となりました。今年度は、二年に一度の役員選挙の年。第一部は入居者部会と職員部会に分かれ、役員改選が行われました。入居者部会では立候補者四名の中から投票によって新しい役員が誕生。部会長に下宿屋の井出さん。副会長に、ふれあい生活の家の原田さんと三谷さんが選ばれました。

入居者代表の人たちは、候補者の名前を書いた投票用紙に○をつけました。開票のときは、一人一人名前を読み上げるたびにワー・キー・キー大さわぎ。

また、今年度にやるレクリエーションが決まりました。野球観戦・



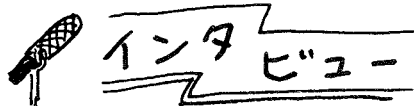
カットは江原 隆さん

ボーリング・温泉旅行。そして：交流会。『交流会』か『デイズニールンド』のどちらにするか、多数決をとり、接戦の結果十ホーム対七ホームで交流会をやることになりました。果たして、今年度中に出来るのか、ちよつと心配。でも皆さん、やる気マンマンです。

第二部では、連絡部会長を初め来賓の方々からの力強い言葉に続き、新しくスタートしたグループホームの紹介を入居者の皆さんがしてくれました。

会場はクーラーが入っているにもかかわらず、皆さんの熱気でムシブロ状態。でも皆さん、暑さにも負けずに最後まで熱心に話を聞いていました。

職員部会長  
菅野正裕さんに聞く



入居者部会長  
井出洋忠さんに聞く

記者 菅野 部会長に選ばれた感想は…  
たいへんなことになった、びっくりした。でも「なんとかなるでしょ」と、お気楽なわたし。皆さんたすけて!

記者 菅野 これから部会でどんな事をやっていきたいですか…  
1回でもおおく飲み会をやりたい。とにかく皆さんであって話しましょう。

記者 菅野 もう日にちはたちましたが、総会についての感想は…  
あたらしいグループホームがふえて、にぎやかになってきたと思った。

記者 菅野 最後に部会長から皆さんに一言…  
いいたいことがあったら、なんでも電話かファックスしてきてください。もしかして、お力になれる人がみつかるかも。



記者 井出 部会長に選ばれた感想は…  
なんでボクが、部会長にならなきゃいけないの…って感じ。オレ、早くヒラになりたい。原田さんの気持ちがよく分かるよ～。ストレスが、たまるよ～。

記者 井出 まあまあ、そう言わずに…。これから部会でどんな事をやっていきたいですか…  
もっと行ける場所があれば良いなあ～。

記者 井出 遊べる場所ね～。総会の感想は…  
今まで通りで、良かったです。

記者 井出 最後に、部会長から皆さんに一言…  
入居者部会の時、もっと多く来て欲しいなあ…。もっとみんな楽しくやろうよ。なんかみんな暗いから、もっとワイワイやろうよ。



協力会員募集!

まちの中でくらししている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるために、ご支援をお願いいたします。

会費(年) 1口 2000円

振替... 00280-7-73608  
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねびっている未使用のテレフォンカード、オレンジカード、ビニール券、商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会  
事務局

〒231 横浜市中区本牧満坂10  
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費

振り込みをお願いします

阪神大震災にあった障害者の生活を支援するために募金を引き続きおこなっています。振替は同上。通信欄に「阪神大震災カンパ」と明記してください。

※ ありがとうございました(196.4.1~8.31) 敬称略

寄附 原田南海子 加藤ヨシ子 上野敬子

テレフォンカード 大山三恵子 西田直子 桑原玲子 瀧口文

市原かね子 草壁きみ 牧篤子 近藤世樹 石井博子  
八島美枝子 的場豊美子 飛田利美子 大津京子 鈴木伸  
水越玲子

協力会員 横田繁次 早川康子・美佐 加藤ヨシ子

辻田平七 末田耕司 原田南海子

大川武 橋詰牧子 浅沼太郎

若林千波 武山和子 鈴木伸

榛村公子 タンポ親の会

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会  
横浜市港北区鳥山町1752  
横浜ラポール3F  
編集人 横浜市グループホーム連絡会  
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家  
TEL 045(623)5318  
FAX 045(623)5319  
郵便振込番号 00280-7-73608  
名称 横浜市グループホーム連絡会  
編集責任者 室津 滋樹  
定 価 100円